坂東PA関連事業に関する整備方針検討委員会 第2回委員会資料

令和2年1月24日

1 第1回委員会の振り返り



<現状の課題>

人口

- ·人口減少、少子高齢化
- ⇒人口減少対策·
 - 交通弱者対策が必要

交通

- ・公共交通網が弱い
- ⇒公共交通ネットワークの 維持・構築が必要

防災

- ・想定を超えた災害の発生
- ⇒災害対策が必要

情報発信・資源の活用

- 資源を上手くアピールできていない
- ⇒情報発信が必要



<立地のポテンシャル>

PAとの隣接

地域防災拠点

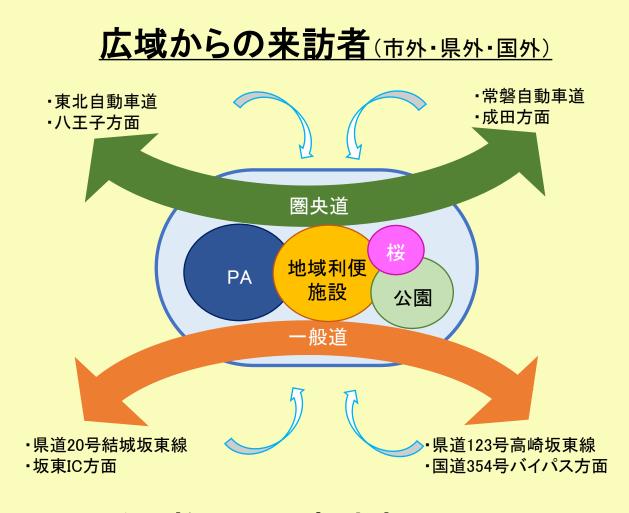
<整備の方向性>

- ・圏央道・PAと隣接
- ・一般道から利用可能

・桜の里山や公園が整備 可能な広い用地



市内外から人を呼びこむ、 情報発信・防災・休憩 機能を備えた施設。



近距離からの来訪者(地域住民、市民)

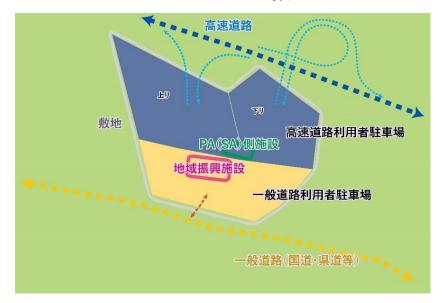


SAやPAと一体化して高速を降りずに利用できる場

高速道路上にあるサービスエリア(SA)やパーキングエリア(PA)に接続した公園や地域振興施設等の呼称。高速道路から降りず、施設等を利用できることが大きな特徴。

地域住民のみならず高速道路等の利用者も公園や地域振興施設を容易に利用し、通常のSA・PA では得ることのできない自然、歴史、文化、産業など地域の特色などさまざまな情報、サービスを 享受することが可能となる。

<ハイウェイオアシスの構造>



地域振興施設の例

- アミューズメント施設
- 温泉施設
- 宿泊施設
- 道の駅 等

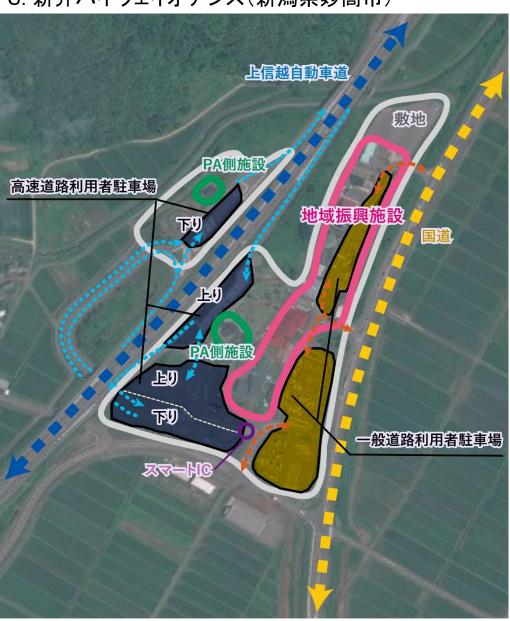
1. ららん藤岡(群馬県藤岡市)



2.みぶハイウェイパーク(栃木県下都賀郡壬生町)



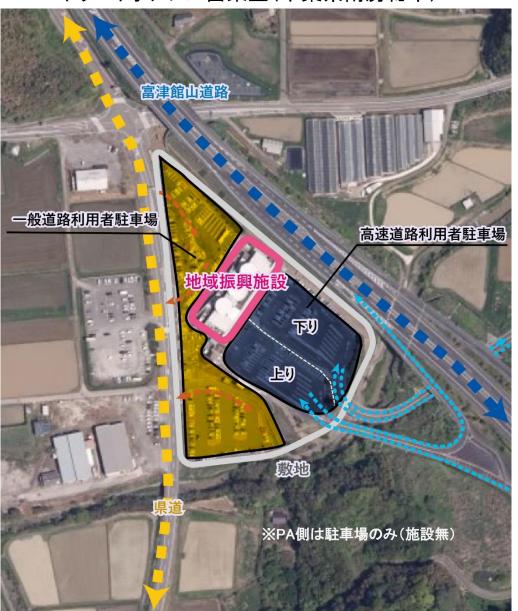
3. 新井ハイウェイオアシス(新潟県妙高市)



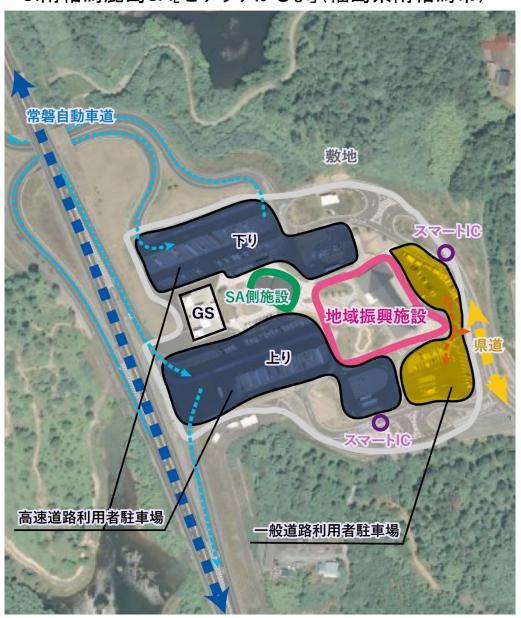
【参考】類似事例4・5



4. ハイウェイオアシス富楽里(千葉県南房総市)



5.南相馬鹿島SA[セデッテかしま](福島県南相馬市)



2 施設規模の試算

(1)前面交通量から見た試算

- 一般道路と高速道路で別々に年間利用者数を算定した。
- 算定に当たり、先進事例の前面交通量、年間利用者数、 駐車台数を根拠とした。
- 一般道路側の算定にあたっては、当該施設の前面道路 は既存の県道の支線であるため、類似事例のデータを 参考にした。
- 高速道路側の算定にあたっては、類似事例の上り線、 下り線の駐車場と施設の位置関係を考慮した。

項目	事例
近隣及び一般道路の 交通量が近い事例	しもつま、 あだち(上り) あだち(下り)
国道の支線が前面道 路である事例	ゆめすぎと
ハイウェイオアシス の事例	みぶ 富楽里

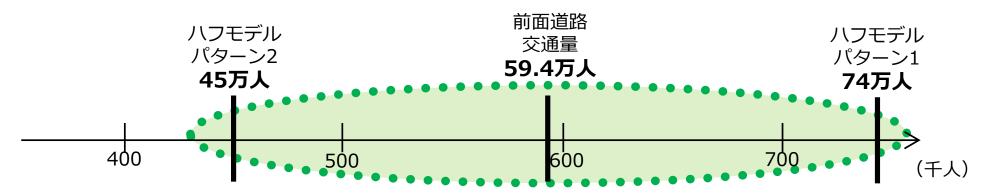
(2) ハフモデルによる試算

- 設定した商圏に居住する生活者が、商圏内の競合施設 及び当該施設のどの施設を利用するかについて確率 (=出向率)を算定する分析手法である。確率は、駐 車規模と移動に係るコストを基に算定した。
- その確率に、商圏人口、1年間にドライブ旅行に出かける割合、そのうち地域振興施設を利用した割合、年間の平均旅行回数を乗じて、当該施設の年間利用者数を算定した。

項目	事例
設定商圏	自動車の移動時間80分
商圏人口	商圏内の市町村の人口
移動に係るコスト	移動距離×燃費 ×ガソリン代
1年間にドライブ旅 行に出かける割合	55.2%
そのうち地域振興施 設を利用した割合	67.6%
年間の平均旅行回数	1.8回



目標年間利用者数予測範囲



● 年間利用者数は、以下の3つの算定結果の平均値である**59.5万人**と設定した。

パターン	年間利用者数 算定結果(人)	条件など
前面交通量	594,303	● 高速道路、一般道路の交通量を基礎
ハフモデル パターン1	739,625	● 競合施設は地域振興施設、一部ハイウェイオアシス、且つ近傍の施設には立ち寄らないと設定● 高速第1、第2、一般道の駐車場全てを考慮
ハフモデル パターン2	449,660	● 競合施設は地域振興施設、一部ハイウェイオアシス、且つ近傍の施設には立ち寄らないと設定● 高速第2、一般道の駐車場を考慮



(1)カテゴリー毎の規模の試算

1 休憩機能

機能	床面積(㎡)	構成、根拠等
トイレ	490.0	男小22、大9、洗面6、 女53、洗面10、多目的2
休憩スペース	87.0	立寄人数1,735人/hの うち2割利用、10分/人、 1.5㎡/人
子育て応援施設	28.0	ベビーベッド5台(うち 授乳スペース3台)、ミ ニシンク等
キッズコーナー	59.0	20人収容
計	664.0	_

② 情報発信機能

- インフォメーション機能(市内外の観光情報、 道路情報、緊急医療情報)、市内事業者を紹介するショップカードの掲示、市内観光パンフレットの設置等。
 - ※情報発信施設は休憩スペースに含めるため、個別に 規模の算定は行わない。

③ 地域連携施設

機能	床面積(㎡)	構成、根拠等
物販	460.0	売場、バックヤード
飲食	288.0	カウンターサービス 方式(客席、厨房)
バックヤード	70.0	更衣・休憩室、トイ レ、通路、屋外ゴミ 置場、機械室
事務所	80.0	事務スペース、グ リーンツーリズム受 付、倉庫、給湯室、 トイレ
多目的スペース	100.0	研修、セミナー、 視察受入等
屋根のある フリースペース	350.0	
コンビニエンス ストア	120.0	県内、近傍の事例参 照
計	1,468	_

2-2 施設規模の試算



(2) 施設規模の試算

- 算定の結果、各カテゴリーの床面積は下表の通りとなった。
- 平面計画を行う段階で、床面積に1割程度の差が出ることが想定されるため、
 施設規模は、1,900㎡~2,400㎡となる。

カテゴリー	床面積(㎡)	主な機能
休憩施設	664.0	トイレ、休憩スペース、子育て応援施設、キッズコーナー
情報発信施設	休憩スペースに含む	インフォメーション機能、市内事業者紹介、観光案内等
地域連携施設	1,468.0	物販、飲食、バックヤード、事務所、多目的スペース、 屋根のあるフリースペース、コンビニエンスストア
計	2,132.0	_









3 ゾーニング及び配置計画(案)



